													日本上代
親字	音訓		文・金文・ i周・春秋		説文解字 秦篆		書 莫・後漢)	草書	行書		書から初唐)	正字体 楷書	ロダエト から 平安初期
五	ゴいつ	$\nabla$	X	X	X	X	X	ス	五	亚	五	五	3
教1常①	いつつ	甲骨	侯馬盟書	瑯邪台刻石	大徐·五部	馬王堆	開通褒斜道刻石			張猛龍碑		干禄·序	聖武天皇雑集
		X	X	X	X	Z	乏			五	五		ス
		史頌殷	包山楚簡	睡虎地秦簡	大徐古文	居延漢簡	西狭頌	_		鄭羲下碑	九成宮		型武天皇雑集
五	ゴ たがい				发			9		互	五	<b></b>	李
常①					大徐·竹部			書譜		金剛明経卷二	泉男生墓誌	干禄字書	王勃詩序
					旦							五	
					大徐或体							九経·竹部〈大徐〉	
												九経·竹部〈隷省〉	
亙	コウ	1	Ō	矿	<b>भू</b> राइ							/UE-1100/4841/	
	わたり わたる	里們	金文	包山楚簡	大徐・木部								
7.0		ह्व	Ō	蒜	A								
		甲骨	金文	包山楚簡	大徐古文								
百	わたり	17.			同	F			(į)	重	百		百
人①		甲骨			大徐·二部	馬王堆			晋祠銘	法華経方便品	-		王勃詩序
		E				户							
<u> </u>		甲骨	-	-		武威漢簡							
亜	アっぐ	47	亞	77	亞	35	亞			亞	好		歰
常①		甲骨	金文	郭店楚簡	大徐·亞部	馬王堆	尹宙碑			暉福寺碑	孔子廟堂碑		道澄寺鐘銘
亞	アつぐ	57	<b>₹</b> \$	N		亞							
		甲骨	金文	郭店楚簡	ılıα	馬王堆							
	サ シャ いささか				画								
\d	ボウ		11.	) 4	新附·此部	معاد	二			<u>ک</u>		、人	2
教6常①	ない なくなる にげる	月	じ	侯馬盟書	大徐・仏部			世界子学文		<b>生脚准换</b> 到	月乙烯青油/棚)	十级、新游戏/十级\	工典技术
47.0 田①	ほろびる ほろぶ			IV-MAINTEL	VM, NZUB	たながり	日土四	日小十十人	1日1均則	CIMALENSEE.	In 1 Marche (48)	VALUE SECTION (ASS)	T-40/8/17
		甲骨	金文	睡虎地秦簡		居延漢簡	禮器碑			鄭長猷造像	孟法師碑	九経·養辨部〈隷省〉	王勃詩序

【五】草書の筆順と行書の筆順は異なる。草書は頻繁に書か 【五】説文や九経字様では竹部にあり、「たけかんむり」が れ、江戸では最終画が右に伸びる。江戸期以降、楷書、行書 ない字体は或体。干禄字書では「氐」の字体を書いている。 では一画目が略されることがある。なぜ略すのかは不明。日 「低」に旁を「互」とする異体字があるが干禄字書の影響か 本相撲協会の五月場所のチラシの相撲字も「五」の一画目を もしれない。九経字様では「たけかんむり」がある字を〈説 略している。ちなみに橘流寄席文字は一画目を略さない。

文〉、「たけかんむり」がない「互」を〈隷省〉、「牙」に似た

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 <sub>大正8年</sub>	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
<b>五</b>	<b>办</b>	五	五	五			五	五	五	五	五	<b>8</b> 5	五. 現代中国
<b>人</b> 元曆萬葉⑨	<b>力</b> 庭訓往来												
才東寺三宝絵詞	は書札重宝記	互	互	3			互	互	3	5		<b>多</b>	互現代中国
	夏											<b>牙</b> 江戸九経(靴)	
		<u>友</u>			互		互						<u>目</u> 現代中国
	巨	亘=4	亘		<b>三</b>								現代中国
		亘											
	垂	亚	亜	歷	班 明治の漢字	亜	亞	距	亜	<u></u> 本		更 明·張瑞図	現代中国
墨流本朗詠恩命帖	<b>沙</b> 開化往来		亞		亜							日 周·金文	玉 戦国·郭店楚簡
		_					些						些現代中国
E 粘業本朗詠	<b>台</b>	=5 +1	亡	て	七		亡	亡	亡	C	亡	五経·序	現代中国
					<b>人</b> 陸軍〈本字〉							戦国・包山楚簡	

字を〈訛〉としている。

【亙/亘】「亙」の字体が不可思議。現代中国では「亘」に統

合されている。陸軍では「本来は別字」とする。

【些】大徐本で新しく加えられた字で、段注本にはない。

親字	音訓	甲骨: (殷・西	文・金文・ 酒周・春秋	古文 • 戦国)	説文解字 秦篆		書	草書	行書	楷 (南北朝 <i>t</i>	書いら初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
亥	ガイい	J PT	り	₹	大徐·亥部	不 居延漢簡	京			<b>灰</b>	水	薊	<b>永</b>
7.0		T	多	靳	歼	EMERICA	汞			/Usering assitu	京	荻	神工米
		甲骨	う	歴史地楽簡	乔		曹全碑				雁塔聖教序	九経·二部〈隷省〉	
		利	<b>藝</b>	新	段注古文								
交	コウ かう かわす まざる	東	<b>食</b>	包山楚簡	育	文	文	五	交	交	交	交	交
教 2 常①	まじえる まじる まじわる まぜる こもごも	甲骨	金文	展院地泰簡	大徐·交部	<sub>馬王堆</sub>	孔宙碑	書譜	集字聖教序	張猛龍碑	文	五経·序	王勒詩序 <b>文</b>
亦	エキまた	<b></b>	灰	郭店楚簡	灾	居延漢簡 <b>大</b>	尹宙碑	ら つ	<u>ا</u>		孟法師碑	亦	王勃詩序
人①		甲骨	毛公鼎	次	大徐·亦部	馬王堆	西嶽華山廟碑	4	蘭亭序	鄭義下碑	孔子廟堂碑	干禄·序	聖武天皇報集
亨	キョウ コウ とおる			睡虎地秦簡	包	銀雀山竹簡	亨	集字聖教序	亨	現霊蔵造像	事	亨	聖武天皇報集
人①					大徐·高部	馬王堆	<b>京</b> 素平石経	景福殿賦	集字聖教序	事	孔子廟堂碑道因法師碑	百百	王勃詩序
					八小家文		HILL LW		E1 #43/1	20年日日20年11年	전하다 기계	Anter High	
享	キョウうける	台	自	享	合日 滁·蘇·	3	享	賀知章孝経		事品製品	身	字	甘子 威奈大村墓誌
m) U		鱼	AX	名も	之 文 大 大 余 東 大 余 東 大 余 東 大 余 東 大 会 第 東 大 会 長 大 の も る る る る る る る る る る る る る	<b>ラ</b>   武威漢簡	字。	景福殿賦		<b>血吸消卷</b>	7000円	1787年	<b>李</b> 聖武天皇羅集
		11 H	並入	<u>си</u> дені	Norse X	子居延漢簡	字。禮器碑	NA HILLION MA					上八八王林来

【亥】大徐本と段注本で古文の字体が異なる。

【交】九成宮では「亠」の下に「夂」を書く。江戸では「亠」 【亨/亨】「亨」と「亨」は、元は「亯」の字体だったものが後 の下に「火」を書く字体あり。漱石は複数の字体を書く。

【亦】魏霊蔵造像記と聖武天皇雑集(下)は「亠」を「ク」の形 育上より見たる明治の漢字』には「亨」の許容字として「享」 に書くが、これは虚画の左払いを実画として書いたものか。 を掲載している。字の上部は古代はやぐら(梯子)なのだが、

康熙字典の古文の字体は古代の例に見えない。

に使い分けが生じ、字体が分かれたらしい。後藤朝太郎『教

										I	子体发遷	子典』フ	大熊肇試作
平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 <sub>大正8年</sub>	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 <sup>昭和21年</sup>	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	Į.	参考
<b>支</b>	玄	交	亥				亥						亥 現代中国
<b>文</b>	食	交 亦 次 亨 - 5	交	灾			交	交	文	交	交		交現代中国
	<b>美</b> 農家用文章			文									
が 元暦萬葉④	新	亦	亦	- 东			亦						亦
示。 元暦萬業⑦		太											
<b>李</b> 後伏見天皇	李飾	亨	亨		事		亨						亨 現代中国
		喜											
		享											
ま 藤原朝隆	<b>家</b>	享	享				享	亭		邮			享
		事											

説文では「口」になる。これは「高・髙」と同様だ。南北朝 以降は梯子に戻り、干禄字書も梯子だ。その字体が日本に伝 わる。江戸になるとまた「口」になる。

親字	音訓	甲骨2 (殷・西	文・金文・ i周・春秋	古文 ・戦国)	説文解字 秦篆	隷(秦・前沿	書集・後漢)	草書	行書	楷 (南北朝 <i>拉</i>	書いら初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
京	キョウ ケイ みやこ	帛	东	倉	京 大線·京部	京馬延漢簡	京、	東	東福寺断碑	京	京加度	京	京
京	キョウ みやこ	A P	327.4	14.36			京				7 9 7 1 2	京和経中部	
亭	テイ あずまや とどまる			帛	亭 大綠·高部	亭馬班	亭	多智永千字文	序	亭	亭		事
				身睡機綱		高級演簡							
						子が居延漢簡							
亮	リョウ					<b>亮</b>	亮	多級が明		쵼	亮		長
人 教1常①	ジン ニン ひと	力甲	大盃鼎	人 睡虎地泰簡	大徐・人部	居延漢簡	乙英碑	十七帖	集字聖教序	人孫秋生造像	人	人	<del>上</del> 新詩序
介	カイ おおきい すけ たすける はさむ	1	€文	人 子弾麻楚帛	↑ 大徐·八部	居延漢簡	ゴ〜			小	个	介	不 Enhips
				<b>ネ</b> 睡虎地泰簡		か 敦煌漢簡	入			介	<b>本思訓碑</b>	1 2 2	
仇	キュウ あだ かたぎ				The table t		がた西狭領			化	<b>什</b> 人		なん。 聖武天皇雑集
						engenhar Ha				<b>伏し</b> 敬史君碑	as a new Party Mill		
教2常①	コンキンいま	A PB	A tan	<b>ト</b> 睡虎地泰簡	↑ 大徐·△部	居延漢簡	西嶽華山廟碑	ト七帖	冷蘭學	A 張猛龍碑	介加度	A 五経·△部	る E動詩序
		甲骨	名 毛公鼎	名郭店楚簡		and a second	The second of th	. 911					

禄は「亰」を〈通〉とし、九経字様は〈訛〉とする。江戸以 「几」の形。五車韻府、美華書館、築地二号の活字もこの字 降、「口」を書くのは『干禄字書』や『康熙字典』の出版によ 体。 る影響か。康熙字典では「亰」は「原」の俗字とする。

【京・京】前漢以降、「口」を書かずに「日」を書く。江戸干 【亮】説文逸字。甘谷漢簡、楊貴氏墓誌、文部省活字の足が

【介】江戸では節用の字体が一般的。弘道軒はそれを採用。

【亭】漱石は「口」、「はしご」、「草書」の3体を書いている。 【今】将棋駒の「歩」の裏側は「と」ではなく、「金(キン・コ

										Γ	字体変遷	字典』大	熊肇試作
平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 <sub>大正8年</sub>	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 <sup>昭和21年</sup>	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
京	第 開化往来	京	京	尧	京明治の漢字		京	京	京	京	京	京河東通	京 現代中国
	京等法地方大成			À								力級(訛)	
	系												
事	亨書和節用	亭	亭	亭	事明治の漢字		亭		亨				亭 現代中国
	夢			亭									
				亨									
死	<b>売</b>	亮	亮				亮						亮
元曆萬葉①	人節用	人	人	人			人	人	1	人	人	戦国·郭店楚簡	人現代中国
介	人	介人2	外	有	<b>小</b> 國定教科書		介	介	19	介			介現代中国
JULI PARE	為	7,2			國人執行日								2617114
		仇人2	化				仇						仇
元曆萬葉②	多節用	<b>A</b>	今	宇	<del>分</del> 國定教科書		今	今	13	<b>今</b>	今		今 現代中国
	<b>と</b> 伊賀越敵討												

ン)」と音が同じ「今(キン・コン)」の草書を宛てたものだと いう。(増川2000)

親字	音訓	甲骨三(殷・西	文・金文・ 語・春秋	古文 ・戦国)	説文解字 秦篆		:書 葉・後漢)	草書	行書		(書 から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
什	ジュウ			1十	十 大徐·人部	テート 居延漢簡	イナー 張景造土牛碑			4+	+		什
1	ジンニ	7=	F	1=	]=	活鬼演問		12	/:	人二	1二		15
教6常①		甲骨	中山王鼎	経党地泰簡 アニ	大徐·人部	馬王堆 <b>1二</b>	曹全碑	十七帖	集字聖教序	張猛龍碑	孔子廟堂碑		王勃詩序
			郭店楚簡	包山楚簡	大徐古文	馬王堆							
			郭店楚簡		大徐古文	居延漢簡			/ Jb	. 11.	, )].		, al.
<b>1</b> 数 5 常①	ブツ ほとけ				計 大徐·人部				集字聖教序	佛	佛路里教序		型武天皇羅集
佛										_ 1	仏		14
以	イ おもう もちいる	d	کے	9	20	<u>~</u>	22	44	~ L		御注金剛経  ノス	火	型武天皇雑集
教4常①	4	甲骨	散氏盤	睡虎地泰簡1	大徐·巳部	馬王堆	乙瑛碑	十七帖	集字聖教序	鄭義下碑 己	孔子廟堂碑	干禄·序	王勃詩序
4	イすでに		侯馬盟書	睡虎地泰簡 2		敦煌漢簡	北海相景君碑	1	17	馮季華墓誌	0		1
	のみ はなはだ やむ		と	包山楚簡	70.1	居延漢簡	乙瑛碑	書譜	<b>写</b>	高貞碑	孔子廟堂碑		要替指歸
教3常①	シ ジ つかえる			サイ 戦国·金文	大徐·人部		1上			<b>イ土</b>		仕	1上
							1士						1
仔	シ	17	<b>1</b>		大徐・人部		張表碑						杜家立成
	センセント	11 18	业人		大統一人部				イシ 集字聖教序	イル	イ山  孟法師碑	化 江戸五経·人部	ではない 型武天皇雑集
僊	セン				XIII /XIII	爆	门界			俘勵服墓誌		僊	<b>作</b>

た。日本では「仏・佛」両方が使われてきた。康熙字典では を加えた字だとされる。金文には「目」に「手」とおもわれ 「仏」は「佛」の古文となっているが、実資料は見えない。 【以】「以」と「目」は異体字。「已」は「以」、「目」と音も意 形で、それで(仕事を)「やむ」という意味を持ったのではない

【仏・佛】「仏」は遅くとも中国の南北朝の頃には使われてい は耜(すき)の象形だという説がある。「以」は、「目」に「人」 るものを加えた字もある。「已」は「目」を天地逆さにした 味も似ているが「すでに」「やむ」という意味もある。「目」 だろうか。睡虎地秦簡1や馬王堆は、「目」を横に倒した形で

平安中期から	江戸版本	康熙字典 1716年	弘道軒	夏目漱石 坊っちやん	通字体活字明治41~	漢字 整理案	文部省 活字	当用漢字表	太宰治人間失格	当用漢字 字体表	子体炎 教育漢字	**************************************
室町		部首•画数	四号	明治39年	大正3年	大正8年	昭和10年	昭和21年	昭和23年	昭和24年	平成4年	
1	11	什	什				什					什
高陽院水閣	節用	人2	<b>}</b> —	10			7-	<i>[</i>		/	1-	現代中国
1 1		仁	1—	1-			仁	1_		1_	1—	仁
元曆萬葉⑨	節用	₹ 1.2.2.2.3.2.3.2.3.2.3.2.3.2.3.2.3.2.3.2.										現代中国
		الأن										
		Ë										
		故										
佛	准	佛	佛	御	1/	14	佛	佛		仏	仏	佛
粘葉本朗詠	節用	人 5		<u></u>	漢字要覧	71-	UF	1/P		×		現代中国
13	12	仏	仏									佛
粘葉本朗詠	飾用	人2古文	ľ									現代中国
ム人	47	以	ンス	ソス			以	以	しく	以	以	以
元暦萬葉①	節用	人3										現代中国
		目										昌
7	2	己2古文	-1	7			5					現代中国
	5	巴		C			已					己
元暦萬葉②	1十	仕	11	1+	44		21	仕	1.4	1-1-	<b>从上</b>	現代中国
元曆萬葉①	74		14	1	了上 國定教科書		化	11	11	11	11	現代中国
七	社	,,,,		14								July 1 M
尼崎萬葉66	節用			1								
	43	仔	仔	13			仔					 仔
	節用	人3										現代中国
14	仙	仙	仙	Yen	仙		仙		14			仙
元曆萬葉⑥	節用	人3		不折俳画	陸軍							現代中国
		僊	僊		僊							仙
		人11	• -		陸軍							現代中国

「人」とおもわれている部分は耜の柄ではないだろうか。「已」
「土」のみ。漱石は「土」と「土」の両方を使用。 は漢代から唐代までは「巳」と字体が衝突していた。

【仕】旁は「土」と「土」の2種類がある。隷書は「土」が多 での使用例が見えない。日本では江戸期に突然出現。 数。北魏の楷書は「士」が多数。唐代楷書は「土」が多数。 日本では江戸時代まで「土」が多数。正字は「土」。弘道軒は

【仔】甲骨では「保」と字体が衝突している。漢代以降、中国 【仙】説文では「僊」。

													□ <b>+</b> L#
親字	音訓		文・金文・ 語周・春秋		説文解字 秦篆		:書 莫・後漢) 	草書	行書		書から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
他	タほか			校	闸	チセ	他	æ	他	他	他	佗	他
教 3 常①				包山楚簡	大徐・人部	居延漢簡	乙瑛碑	十七帖	王献之	元熙墓誌	装休圭峰禅師碑	五経·人部	王勃詩序
佗								学化関帖				他	爬
代	タイ・ダイ かえる かわる しろ	14	*	伐	IK	14		K	\X\	代	代	代	17
教 3 常①	よ	石鼓文	睡虎地泰簡	信陽楚墓	大徐・人部	居延漢簡	史晨前碑	書譜	淳化閣帖	高貞碑	九成宮	干禄·序	王勃詩序
村 教4常①	フ つく つける	1分散氏盤	包山楚簡	<b>ク</b> 労 睡虎地泰簡	大徐・人部	<b>3</b> 馬王堆	<b>イーナ</b> 居延漢簡	淳化閣帖		元遥墓誌			付
令 教4常①	レイ しむ	阜	大盃鼎	<b>个</b> 睡虎地泰簡	含株市	P 馬王堆	P	淳化閣帖	人 集字聖教序	\$ 100 March	孔子廟堂碑	令 五経·△部	王勃詩序
教4前①			<b>695</b>	含	人体・口部	馬土堆	乙块桦	浮化阁帕	来子室教庁	高貞碑	1.1 期 至 件	五桩・八市	土初耐力
		股·金文	戦国古璽	包山楚簡	717	居延漢簡	A4 400-0						
伊瓜	イ かれ これ	<b>7</b> 尺	1月 <sup>金文</sup>	<b>於</b> 睡虎地泰簡	大徐・人部	<b>7</b> 多 <sub>馬王堆</sub>	伊			伊高貞碑	伊泉男生墓誌		<b>1</b> 子
			1月 上海楚竹書	/書	派 大統古文	伊銀衛山竹簡							
仮	カ ケ かり		上两龙门音	秋岡 口 宝	闸	1段	作文 中最終	掘				假	
根	カ ケ				大徐・人部	う段	「段	ると	晋祠銘	假	信行禅師碑	假	王勃詩序
2	かり					居延漢簡	熹平石経	書譜		元勰墓誌		五経·人部	
会	カイ エ あう あつまる かならず		会员	第店差簡	大統一會部	會	會	<b>4</b>	會	會	會	會	會
教2常①	エ カイ あう	甲寅		常的	冷	馬王堆 <b>含</b>	史晨後碑	智永千字文	王羲之	會	會	會	金
2	あつまる たまたま		金文	睡虎地泰簡	大徐古文	居延漢簡	張景造土牛碑			<b>一</b> 隋蘇孝慈墓誌	智永千字文	五程· △部〈石程〉	王勃詩序
企	キ くわだてる	1	\$		回		企	k;		仚	企	企	企
常①		甲骨	股·金文		大徐・人部		魯峻碑	十七帖		土義乙東万朔鹵賛	昭仁寺碑	江戸干禄	威奈大村墓誌
		<sup>⊞</sup>			大徐古文					夏金虎墓誌	道因法師碑	五経·人部	

- 【他】異体字の「佗」は包山楚簡の字体と一致する。
- 「令」に「口」を加えて「命」とすることもあったらしい。
- 【仮】康熙字典には「仮」と「假」は別字として載っている 【会】常用漢字の字体は草書かできたものと思われる。五経文 が、それとは別に日本では「假」の草書からできた「仮」が 字に、説文篆文に忠実な字体と石経の字体の両方がある。
- あり、字体衝突した。江戸版本では「仮」と「假」の使用頻 【令】隷書や初唐の楷書では最終画が縦線。戦国古璽では 度は半々ぐらいである。中国では現在も「仮」と「假」は別

										于仲炎楚	于典』人	174年烈
江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 <sub>大正8年</sub>	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 <sup>昭和23年</sup>	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
•	他人3	他	40	化明治の漢字		他	他	んと	他	他		他 現代中国
		佗										
計画	代	代	代			代	代	代	代	代		代 現代中国
付日本永代蔵	付人3	付	H			付	付		付	付		付現代中国
節用	<b>令</b>	令	た	教科書		令	令	رام	令	令		令現代中国
伊藤	伊	伊	17			伊		伊			康熙古文	伊 現代中国
	<b></b>											
极	仮	仮	假	仮明治の漢字	仮	假	仮	個	仮。	仮	作員	假
個	假。	假		仮			(假)				作完 東晋·宏仮帖	假
親鸞聖人	會	會	雷	<b>會</b> 明治の漢字	會	會	会	個	会	会		会 現代中国
<b>多</b>	<del>松</del>	会	九	会	会		(會)					会現代中国
<b>企</b>	企 人4	企				企	企		企。		<b>企</b>	企 現代中国
女今川宝島台	全											
	が が が が が が が が が が が が が が	江戸版本 1716年	江戸版本 1716年 2018年 1016年	江戸版本 1716年	江戸版本 1716年	江戸版本 1716年	江戸版本   1/16年   1/1	江戸版本   1716年   171	17   16   17   16   17   17   18   18   18   18   18   18	Tip   Mile   Mile	Tipe   Main   Pick   Pick	17/16   17/16   18

【企】漢から南北朝時代ごろまでは下部を「止」ではなく「山」 を書いていたらしい。王羲之も「山」を書いている。

	T												
親字	音訓		文・金文・ i周・春秋		説文解字 秦篆		書 莫・後漢)	草書	行書		書 から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
伎	キ ギ わざ たくみ				下 大徐·人部		7支		<b>俊</b>	<b>伎</b>	<b>俊</b>	大大	
林	キュウ やすまる やすむ やすめる いこう	₩ <sup>甲骨</sup>	大大	中山王方靈	TH 大徐·木部	付ナー 居延漢簡	休	淳化關帖	(生	<b> </b>	1大	休	体
	やめる	秋		<b>17</b> 米 新祭葛陵楚墓	旅 <sub>大徐或体</sub>	プンドへ 敦煌漢簡				体、	休	体和	休
						1本				休	体		<b>体</b>
仰	ギョウ コウ あおぐ おおせ				大徐·人部	イイヤ 居延漢簡	ブニア 史晨前碑	<b>4</b> 2	<b>{</b> 了}	杼	仰		を E 勃 詩 序
										郷鉄下砲	仰		作 最遵空海請 来目録
件	ケン くだり くだん				1件					件	件製料		件東大寺献物帖
伍	ゴ	1X	<b>1</b> XX 睡虎地秦簡	1区	大徐・人部	<b>7.</b> 工工 居延漢簡	<b>个</b> 区、			<b>人</b> 五、	<b>仁</b> 五	イム 九経・序	
仲 教4常①	チュウなか			す	大徐・人部	イムマ	て中 <sub>曹全碑陰</sub>	<b>1</b> 中	仲	仲	1中		件
					り 食注・人部		イママ	B太宗屛風書					
<b></b>	デン つたう つたえる つたわる	科	1 <b>4</b>	少時時期	別 大徐·人部	<b>沙</b> 馬王堆	1事	13	停	傳	傳	傳	傳
傳			が正盤	學		7字	下事- Z瑛碑		(書				
任	ニン まかす まかせる たえる	工	<b>引</b>	<b>注</b> 睡虎地秦簡	】王 大徐·人部	了 <del>二</del>	1三	1000円	<b>1</b> 至	任	任	<b>1</b> 至	任
		I 个	2天	In		了王 敦煌漢簡					<b>1王</b> 伊闕仏龕碑		<b>4 王</b> 小野毛人墓誌

【伎】干禄字書では「技」の〈通〉、つまり「技」の異体字と は横線がつくのは度人経1例だけ。日本の上代は横線つきも して扱われている。行書、楷書では咎無し点が付くことあり。 書かれる。干禄字書では横線つきの字体を〈俗〉としている 【休】説文に「广」がついた字体があるが、これに合致する例 が、康熙字典にはない。手書きでは咎無し点がつくことあり。 が見えない。南北朝時代は下に横線やれっかがつく。王羲之 も興福寺断碑で横線付きの字体を書いている。唐代の楷書で 多くの場合「卬」の1画目が左から右に書かれる。咎無し点

【仰】旁の「卬」が「印」と書かれることがある。手書きでは

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首·画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 <sub>大正8年</sub>	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参	考
	は	伎					伎		俊			伎	伎 現代中国
保	体	休	休	体			休	休	休	休	休	体	休
休	他	人 4										江戸干禄〈通〉	現代中国
粘葉本朗詠	女用文章												
1 <b>ラ</b> ア	将	仰	仰	lup			仰	仰	/LP	仰			们 <sup>現代中国</sup>
17.													
<b>7</b> 牛	<b>4</b>	件	件	件			件	件	14		件	<b>/</b> な 漱石	件
伍		伍	伍	12			伍					12	伍
イ中 元暦萬葉②	1中	仲人4	仲	仲			仲	仲	仲	中	仲	至4 4 1961	件 現代中国
<b>侍</b>	<b>掲</b>	傳	傳	15	伝		傳	傳	争	伝×	伝		传
	梅		伝	傳									
<b>1</b> 五	12	任	任	任			任	任	任	任	任		任現代中国
<b>イチ</b> 墨流本朗詠	, —												

がつくことあり。文部省活字の字体は奇異に感じる。

【件】段注本には載っていないが、大徐本に新附とも書かれて 字体。「伝」はなぜこう略すのかわからない。 いない。段注の抜けなのか、本来の説文にはなかったのか。

【仲】段注は□の形を使い分けているようだ。

による字体の違いがよくわかる。現代中国の簡体字は草書の

【任】中国の古代から日本の江戸時代まで正字も含めて旁は 「壬」ではなく「王」とする例が多い。「壬」だとしても1画 【伝】この字種は、繁体と略体、正字と通用字、楷書と明朝体 目は左から右に書くことが多い。殷代は「王」でなく「工」。